

2022 CALENDAR

8月の行事予定

村立平野診療所 診療外来のご案内					
曜日	月	火	水	木	金土日
9:00~12:00 (月のみ10:00~)	内科	内科・外科	内科	小児科	
14:00~17:00	外科	小児科	心療内科		

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
31 ●報湖祭 (P29)	1 仏滅 ●報湖祭 (P29)	2 大安	3 赤口	4 先勝	5 友引	6 先負
	可持	不持	可持	可持陶	可持	可持
7 仏滅	8 大安	9 赤口	10 先勝	11 友引 山の日	12 先負	13 仏滅
立入日	可持	不持	可持 立入日	立入日	可持 立入日	可持 立入日
14 大安	15 赤口	16 先勝	17 友引	18 先負	19 仏滅 ●小中学校 始業式	20 大安
立入日	可持	不持	可持	可持陶	可持 可持	可持
21 赤口	22 先勝	23 友引	24 先負	25 仏滅	26 大安 ●行政相談 (P20)	27 友引
立入日	可持	不持	可持	可持	可持	
28 先負	29 仏滅	30 大安	31 閉 赤口 ●乳児健康相談 (P34)	1	2	3
立入日	可持	不持	可持			

閉 図書館=山中湖情報創造館閉館日 ※開館時間(9:30~21:00)詳しくはP31をご覧ください。
 可 可燃物収集日 不 不燃物収集日 陶 PETボトル収集日 8:30までに指定の場所に出してください。
 持 持込(可燃・不燃) 持 持込(可燃のみ)=クリーンセンターへ直接搬入可能日(9:00~11:00 13:00~16:00)
 ※7/25~8/20は直接搬入可能時間が(8:30~11:00 13:00~16:00)に変更になります。
 可 地域リサイクルは毎月第3金曜日の9:00~11:00に、山中湖村役場下駐車場でを行っています。
 立入日=北富士演習場立ち入り許可日 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日程が変更になる事があります。

8月の休日夜間急患診療の医療機関をお知らせします

在宅型		診療時間	休日	病院群輪番型	
日	曜日	診療所名	診療科目	富士吉田市立病院・山梨赤十字病院	
7	日	健康科学大学クリニック	整形外科	令和4年4月から12月まで	
11	木	小籠クリニック	内科	山梨赤十字病院 奇数日が内科、偶数日が外科	
14	日	ことぶき診療所	内科・外科・小児科	富士吉田市立病院 奇数日が外科、偶数日が内科	
		小林眼科医院	眼科	診療時間 休日 8:30~翌8:30 土曜 12:30~翌8:30 夜間 17:00~翌8:30	
21	日	駒谷整形外科	整形外科	問い合わせ(テレフォンガイド) 富士五湖消防本部 TEL.23-4444	
		さいとう眼科クリニック	眼科	救急医療とは、急病やケガなど、救急に処置または治療が必要な場合に行う医療です。「日中は仕事や用事があるため行けない」「夜間や休日でもやっているから」等の理由で安易に受診する医療ではありませんので、ご注意ください。	
28	日	ささき頭痛・脳神経クリニック	脳神経外科		

※前日や当日(休日)に当番が変更となる可能性があります。

広報 やまなかこ Public Information No.478
 発行/山中湖村役場 編集/村未来政策課
 〒401-0595 山梨県南都留郡山中湖村山中237-1
 TEL.0555-62-9971 FAX.0555-62-0827
 ホームページ https://www.vill.yamanakako.lg.jp/

地域をつなぐ行政情報誌
 山梨県 山中湖村

Public Information No.478

広報 やまなかこ

Yamanakako

2022.
 8月
 August

特集「近自然工法」…P2~9

写真：施工後の登山道

自然を守り、
未来につなげる。
近自然工法で石割山を復元

この写真は施工前の石割山登山道です。施工後の表紙写真と比べてみてください。同じ場所ですが、人間の踏圧や流水の影響により山肌が大きく削れ、木の根が剥き出しの悲惨な状況です。

こうした状況は石割山以外のハイキングコースでも多く見られ、登山者にとって大変危険な状態になっています。

このような登山道を修復するため、「近自然工法」による、登山道整備の取り組みが始まりました。

「石割山を守っていききたい——」そんな思いから、自然を未来に残す新しい一歩『近自然工法で石割山の登山道補修』が始まりました。今年の5月から補修が始まり、一部区間の補修は完了しました。

その取り組みでは、私たちの地域の自然や文化を守り、未来につなげるために、協力してくれる方々の姿や思いがありました。

今回の特集では、自然や文化をつないでいる人の生の声をお伝えします。大切な未来をつなぐためには何が必要なのか、一緒に考えてみてください——



▲石割神社

石割山

山中湖の北東に位置する標高1,413mの石割山。8合目付近には漢字の「石」の字の形に割れた大岩を御神体とした神社があり、パワースポットとしても知られています。



▲石割山頂上からの景色

なぜ、石割山なの？

事業について

「石割山の登山道を なんとかしたい」 という利用者の声から



環境省
富士五湖管理官事務所
国立公園管理官

小西 美緒 さん(写真 右)
齋藤 明光 さん(写真 左)



利用者主導で始まった登山道補修

今回、近自然工法による補修作業を行ったのは、普段から石割山のハイキングコースを利用しているトレイルランナーや地域の皆さんです。参加者は、延べ128人。そのうち110人がボランティアとして参加しました。きっかけは、利用者自身が、年々状況がひどくなっている登山道をなんとかしたい。と声をいただいたことから補修の取組みが始まりました。



官民が一緒におこなう協働型管理

私たち、環境省富士五湖管理官事務所は、国立公園の自然保護のための許認可や直轄施設の管理を行っています。石割山ハイキングコースからの富士山の眺めは、富士箱根伊豆国立公園の中でも随一といえます。

近自然工法による補修は、大がかりな工事ではありませんが、周辺の間伐材などの資材調達や運搬、補修作業などに多くの人力が必要です。大変な作業ですが、協力いただいたトレイルランナーの皆さんは補修方法を熱心に学び、やりがいを持って楽しそうに作業をしていたことがとても印象的でした。

今後も官民が一緒になって作業し、登山道全体が良くなるように協働する仕組みを考えていきたいと思っています。

補修作業に取り組んだ人たち

石割山を守りたい という思いから

青葉会
長田 道廣 さん

青葉会は石割山を守っていききたいという思いから、長い間登山道の補修を行ってきました。始まりは、昭和23年生まれの同級生の集まりで、50年弱活動をしています。主な活動内容は石割神社周辺の修繕で、年一回石割神社祭典の前に行っています。補修箇所については、青葉会で登山道を歩き補修が必要な箇所を検討したり、登山者からの修理依頼を受けています。石割神社の大岩にかかっているしめ縄を最初につけたのも青葉会です。

このような活動が長く続いているのは、石割山や石割神社が神様のいる場所であり、その場所を整備しているという意識があるからです。



村民の声

子どもたちの笑い声で あふれていた石割山

石割神社 宮司 長田 敏貴 さん

所の増加により敬遠されるようになりました。

このまま荒廃が進むとお年寄りや子どもたちは登れなくなり、登山道自体の利用ができなくなってしまいます。

このままでは、登山道が利用できなくなってしまう

石割山は、メディアでパワースポットとして紹介されることも多く、近年のアウトドアブームも重なり、成人の方やお年寄りの登山者が増え、年間2~3万人におよび以前の5倍近くになっています。

しかし、登山者の総数が増えたからよいということではないと考えています。

都心から距離が近い山中湖村には、県内外から遠足や校外学習で石割山を訪れる小中学校が多かったのですが、ここ10年は、登山道の荒廃による危険箇

これからの石割山登山道への希望

今回の施工後に石割山に登ったところ、まるで元々あった道のように自然になじんでいること、非常に歩きやすいことが両立されており、予想以上に近自然工法が良いものであることが分かりました。今後はこの近自然工法で、石割山だけでなく、山中湖周辺の登山道整備を行うことで、歩きやすく景観の良い、観光客が気持ちよく利用できるハイキングコースを作ってほしいです。



▲石割神社 鳥居



▲石割神社 祭典



▲青葉会のメンバー



▲登山道入口の補修



▲御神木の謂れを記した看板

登山道を直す

講師の声

自然の構造を理解し 自然環境を再現する

近自然工法 講師 岡崎 哲三 さん

一般社団法人 大雪山・山守隊
合同会社 北海道山岳整備代表
1975年生まれ、北海道札幌市出身。
2003年近自然工法に出会う。
2011年北海道山岳整備を立ち上げる。
2018年に民・官・学・企業が連携した山岳管理システムを構築すべく、大雪山・山守隊を立ち上げ、日本各地の民間団体と連携しながら次世代の国立公園管理を目指している。

私たちの「思い」

私たちの仕事は“きっかけづくり”なんです。自然に対しても、人に対しても。色々な地域で登山道整備や講演活動をしています。あくまで“きっかけづくり”にすぎません。実際に育つのは、その土地の植物であり、手入れをするのはそこで暮らす人々です。どんなにゆっくりでもいいから、その土地土地に合うかたちで植物が育ち地元の人たちが手入れを行っていくのがあるべき姿なんだと思います。



近自然工法とは

今までの登山道の整備は「土木工事」の考え方で行われてきました。規則正しい配置の階段、コンクリートや石畳路面がつくられ、およそ自然界には存在しない構造物が施工の主流でした。

「近自然工法」はその逆で、自然の中にあるもので施工し、自然に近づけることで生態系を復元させることが目的です。自然をよく観察し、その場所に適した施工を行うと自然環境が復元し、土壌が安定する。「生態系の底辺が住める環境を復元させれば、おのずと生態系のピラミッドが出来上がる」という発想です。それが結果的に施工物を長持ちさせることにつながるのです。

最近では、以前に比べ登山道整備に予算が充てられなくなり、荒廃した登山道が数多くみられます。登山者にとって大変危険な状態になっており、ここ石割山でも同様の状態になっています。官民が連携し、その地域全体で整備していく体制を整えていくことが大切です。



石割山登山道 補修作業の流れ [近自然工法]

- 1 施工前**
人や水の影響で大きく削れた登山道。実際の石割山で行った施工箇所の一つです。
- 2 計測**
施工箇所を見てどのように施工を進めるか考え、必要な資材のサイズを図ります。
- 3 切り出し**
倒木のみを使用しました。なるべく太くて大きいものを選ぶことで、施工が長持ちします。
- 4 運搬**
スリングという紐を丸太に引っ掛けて運びます。砂は背負子に詰めて運びます。
- 5 配置**
自然界に存在しない杭は使わず、その場にある丸太や石を配置しステップを刻みます。
- 6 施工後**
低いステップを作ることで、流水の影響を軽減し土砂の流出を防ぎます。左右の斜面に植物が定着することで、土壌が安定します。



動画で見る「近自然工法」

←近自然工法の様子はこちらから



山中湖村の、10年後を 想像してみてください・・・



安定した土壌からは植物が復元し、踏圧による裸地化部にも植物が戻りつつあります。

こうなると復元した植物が施工物を
守る働きが生まれ、長く保つ構造物になります。

正しい施工が出来ると自然は復元します。
自然復元は自然の成り立ちを再現することが重要だと考えます。

人間がすべきことは自然らしく見せる施工ではなく、
自然が復元していく「きっかけ」を作ることだと考えます。



※登山道の整備は法令遵守、土地所有者の許可を得て行っています。

今後の展開

9日間の作業で石割山のハイキングコースには、木階段が139段完成しました。しかし、コース全体から見るとほんの少しです。

今後は、今回学んだ近自然工法による補修を、地元の子もたちと一緒に環境学習の場として行ったり、ハイカーやトレイルランナーが地域の方と一緒に汗を流して作業をしたり、登山道の補修をきっかけに、自然が回復するだけでなく、平野地区や山

これからも、自然を守り、未来につなげる。

山中湖村に愛着をもつ人々を増やしていきたいと考えています。そのために、この取組みを継続させる体制作りや官民が協働して持続可能な管理体制の構築を進めていきます。

ぜひ、一緒に取り組みを行いませんか？まずは、石割山ハイキングコースへ登って、完成した木階段を見てください。

(環境省 小西美緒・齋藤明光)

プロジェクトに関わった団体

- NPO法人 富士トレイルランナーズ倶楽部 ●山中湖平野財産区(一般社団法人 平野共有財産管理組合) ●忍野村役場(教育委員会)
- 忍野村内野特権区(内野忍野村内野地区) ●富士山麓トレイルコミュニティ ●UTMF ボランティアネットワーク
- TeamRICKA ●合同会社 北海道山岳整備 ●環境省 富士五湖管理官事務所 ●山中湖村役場(観光課・村未来政策課)

参考URL

環境省
<https://www.env.go.jp>



一般社団法人 大雪山・山守隊
<https://www.yamamoritai.com>



NPO法人 富士トレイルランナーズ倶楽部
<https://fuji-trailrunnersclub.com>



活動報告→

